

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。

食はいのち

CoopJoso

News Letter

2024年8月1回号 発行:常総生協広報G 2024.7.22

2024-25年度活動テーマ(案)「ともにつくる・考える 私たちの食」

2024夏のお盆供給のお知らせ！

＜＜8月の供給スケジュールのお知らせ＞＞

	日	月	火	水	木	金	土
7月4回供給	7月21日	22	23	24	25	26	27
カタログ配布		8月1回・2回カタログ2週分配布					
注文提出	休	(7月5回分提出)					休
7月5回供給	28	29	30	31	8月1日	2	3
カタログ配布		8月3回カタログ配布					
注文提出	休	(8月1回・2回注文書2週分提出)					休
8月1回供給	4	5	6	7	8	9	10
カタログ配布		8月4回カタログ配布					
注文提出	休	(8月3回分提出)					休
8月2回 変則供給	11	12	13	14	15	16	17
配布なし		変則供給			生協		
提出なし	休	商品の受け取りのみ			お休みです		休
8/3回供給	18	19	20	21	22	23	24
カタログ配布		9月1回カタログ配布					
注文提出	休	(8月4回分提出)					休

(8月変則供給の補足・注意事項)

★「前日OK」商品、「ふるさと便」サービスについて

8月2回の変則供給は「前日OK商品」「ふるさと便」のサービスの利用ができません。

8月1回の「前日OK商品」「ふるさと便」のサービスの利用は可能です。

★8月2回変則供給の供給曜日、時間のお知らせ：後日個別に配布致します。

★賞味・消費期限が長いもの(冷凍・ドライ品)に関して、置き置き保管も可能です。

～供給担当までご相談ください(´▽`*)～

毎月はじめ「1の回」は 岩瀬牧場の豚肉特集！

(8月1回カタログ・7ページもご覧ください！)

■地域循環から生まれる自家製の飼料



現在主流の養豚は、飼料会社が製造した海外穀物を主原料とした「配合飼料」を与えますが、岩瀬牧場では地域の食品工場から出る残渣（ざんさ）を原料

に、自分たちで手作りしています。原料をバーナーで加熱・攪拌し、酵素を混ぜて時間をかけて切り返し（空気とよく混ぜる）ながら、発酵させたもの（発酵飼料）を豚に与えます。時間と手間と技術が必要ですが、豚の健康を左右する飼料を他人任せにせず、自分たちで納得したものだけを与えます。通常は産業廃棄物となってしまう食品残渣を活用することで、年間600万トンと言われる「食品ロス」の削減にも微力ながら貢献し、地域での資源循環型の養豚を目指しています。

出来上がった飼料(発酵飼料)を食べて育った豚は腸内環境も良く、ほとんど下痢をしません。病気にもなりにくいので、一般的には予防や治療に使われるような投薬もほとんどありません。ただ、通常の養豚で用いられる配合飼料に比べると生育はゆっくりで、一般的には6ヶ月程度で出荷するところ、岩瀬牧場では8～9ヶ月かけてじっくり育ててから出荷します。そのことは肉質にも良い影響を与えているようです。

■他にはない岩瀬牧場オリジナル品種

岩瀬さんの豚肉の特徴と言えば「脂の甘味」です。味と肉質の決め手は何と言っても他の一般的な銘柄豚などでは見られないオリジナルの品種(交配)。

国内に出回る豚肉（ブランド豚含む）の多くは白豚系の豚で、成長が早く、赤身が多く取れて適度な脂がのる「三元豚」と言われるものが主流です。対して岩瀬さんの豚は、先代の岩瀬弘さん（現代表・卓子さんのお父さん）が原種の豚を最初から掛け合わせ、試行錯誤を繰り返して作り上げた完全オリジナルです。交配スタートから実際に出荷するまでに約4年。手間と時間のかかる品種です。

そんな岩瀬牧場の豚は、一般的なものよりも脂が多く、歩留まり（経済効率）は悪いのですが、自家製発酵飼料の効果と相まって肉の旨味、脂の甘味はひと味違います。

一般的な豚肉↓



岩瀬さんの豚肉↓



■あえての手作業。 豚と対話しながら育てる



現在、一般的には人手不足と大規模化もあり、コンピューターで室温やエサの量を管理できるオートメーション化が進んでいますが、岩瀬牧場ではほぼ全てが手作業。その理由は「目の届く範囲で1頭1頭を大事に育てたいから」。豚の管理も「人の感覚」を重視します。エサは残していないか、いじめられていないか、毛並みは良いか、水は飲んでいるかなど、常に豚の表情や様子を気にかけてながらきめ細やかな管理を日々行っています。

■みんなの利用で応援！

生協職員も生産現場に入って作業し、岩瀬さんと一緒に「いのちに触れる仕事」に携わっています。岩瀬牧場＝ミートパル村山さん＝生協という繋がりの中で作られる「岩瀬さんの豚肉」。岩瀬牧場との共同の取り組みを、組合員みんなの利用で応援してください。また、牧場のみなさんへのメッセージもぜひお寄せください。

(商品部・牧場担当横関)

STOP!! 東海第二原発の再稼働 いばらき大集会

2024年 8月24日（土）13:30 開場12:30

駿優教育会館 8階音楽ホール

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-1-42 TEL 029-227-5552

参加費無料

*どなたでもご参加いただけます

*風邪症状がある場合は、参加をお控えください。

*駐車場は周辺のコインパーキングをご利用ください。
公共交通機関のご利用が便利です。



老朽原発 再稼働あぶない!!

●13:30～15:30

*主催者あいさつ／賛同人の訴え

*連帯のごあいさつ

東海第二原発訴訟弁護団 鈴木 裕也 弁護士

*講演「能登半島地震と危険な原発再稼働」

講師 北野 進 さん（志賀原発を廃炉に！訴訟原告団原告団長）

●15:50～16:30

*アピール行動（デモ）【雨天決行】

宮下銀座入口スタート → 南町自由広場にて解散

【主催】STOP！！東海第二原発の再稼働いばらき大集会 実行委員会

<問合せ> 原発いらない茨城アクション実行委員会事務局

TEL 029-221-6811(相楽) 029-282-3619(相沢) 029-231-4555(花山) 029-251-2806(篠原)

【組合員で参加できそうな方へ】●生協出発で、一緒の車で参加できる様に手配致しますので、生協までご連絡ください。その場合の締め切：8/2金まで【生協本部：0297-48-4911】

●その必要が無い方は、直接現地にお越しください。



理事 齋藤 享子

皆さん、こんにちは、今期の理事を務めます齋藤享子と申します。よろしくお願い致します。

今回の理事交代を機に、前期までの理事の皆さんが組合員の皆さんや職員の皆さんとともに取り組まれてこられた数々の活動や想いに触れさせて頂き、常総生

協の素晴らしさに感銘を受けました。退任されました前専務理事の伊藤さんや理事・監事のみなさま、ありがとうございました。

正直ベースで申し上げますと、今までの私は常総生協を通して、私が欲しい商品を手に入れていた「こだわりのある消費者」でした。食品の多くは常総生協で購入する際、安心安全で美味しい商品を作ってください素晴らしい生産者さんを「買うことで支える」という想いがありましたが、「共に創って行く」協同組合の出資者である、という当事者意識はほとんどありませんでした。

生協に関わって行くことが、「ジブンゴト（自分事）」ではなかったのです。

「消費者であることを超えて、私たちが暮らす環境、地域の未来を見据えて行動し、共に創って行く」。無理して苦しみながらではなく、自分をそして仲間を活かしながら、楽しみながら。

この自分達の組織（ある意味、「安心安全な食を支える地域に根差した支え合い・経済コミュニティ」とも言えるのではないのでしょうか？）が、ジブンゴトになった今、組合員皆さんに託された想いを実現していくための理事として、そして、この大きく変わって行く時代を生きる一人の母親として、人間として、皆さんと共に、常総生協での実践を通して学び、成長し、子どもたちが「ここに生まれてよかった」と心の片隅にでも郷土への想いの灯を感じ続けて頂けるような子どもたちの原風景づくりに、微力ながらも、つなげて行きたいと思っております。

ここで、少し私について紹介させて下さい。私は、6年生&3年生の二人の小学生の男児の母です。夫はフィリピンに単身赴任しています。子どもたちの育ちの環境を考え、18年間過ごした海外生活に終止符を打ち、7年前に取手に移住しました。今では、親子共々、この取手&「ちばらき（千葉&茨城）」が大好きで、地域の隣人やお友達などに助けて頂きながら、日々楽しく暮らせることに、心から感謝しています。

移住してすぐに、無認可の保育園で出会ったママ友からのご紹介で、私は常総生協の組合員となりました。ラオス（東南アジア）とベナン（西アフリ

カ）という、日本人にとってはいろいろな面で試される国々で働き、現地の皆さんから「異なる文化」について、そして、自然とともに素朴な暮らしを営むことなど、日々、学ばせて頂いていた私にとって、取手という知らない土地で暮らすことは、もはやチャレンジではなかったのですが、3歳と1歳の乳幼児とともに安心安全な食をどのように確保したらいいのかについては、移住してすぐに抱いた課題でした。そんな中、常総生協との出会いは、本当にありがたかったです。

地域の耕作放棄地をお借りしてヒマワリの種を自らまいて、ヒマワリを育て、ヒマワリ油を自給したり、自ら麦をまいて小麦粉栽培をしたり、台所で出る生ごみは庭に植えて堆肥にして庭の畑で様々な野菜などを栽培したりしてきました私ですが、気候や環境の変化、資材の入手が困難になるなど、様々な変化が顕著になっている中、安心安全な食べ物を栽培し続けていらっしゃる農家さんや漁師の方々、食品製造、加工に携われる皆様が日々どれほど心を砕き、汗を流していらっしゃるか、経営されているか、ただただ頭が下がるおもいで、感謝の気持ちでいっぱいです。

ぜひとも皆さん、常総生協が主催する生産者さんを訪ねるイベントや勉強会、体験、そして、生産者さんと交流できるお祭りに一緒に参加してみませんか？昨年、私はお祭りに参加して、これほどの素晴らしい生産者さんとの信頼関係のある常総生協はすごい！と感動しましたし、とても楽しかったです。

さらに、今回初めて総代会に出席したことも、とても新鮮な体験でした。総代の皆さんがしっかりとご自身の言葉で質問し、意見を活発に出し合う姿を目にして、これこそ「経営にもしっかりとモノ言う組合員が創っているのが常総生協」の民主的な運営スタイルであり、「それはちょっと違うのではないかと」と、モノを申してしまう私自身が、今まで（保守的と言われる）茨城で感じたことがない心地よさを感じました。

月末土曜日の理事会や一年に一度の総代会や、今後開催されます懇談会にもぜひとも参加されてみてくださいませ。何らかの関わりをもつことで、自分がどう感じ、自分はどうしたいか？自分をしっかり満たすこと、家族をしっかり満たすことがもちろん一番大事なことですが、自分達が暮らす地域の環境や未来に起き得ることも含めて、自分の人生を人任せにしないのと同じように、自分たちの地域を創って行くことを人任せにしない主体的な市民として、自分や社会と向き合う機会となるかもしれません。

今後皆さんとお会いできますこと、皆さんの声をお聞かせ頂きますこと、皆さんとともに意見を交わし、楽しい体験ができますこと、楽しみにしております。